學童は必要な全ての支給品を無料で受けてゐた。

最後に、社會保險の直接の要求を充たすための支出の第三の部分は病院、醫藥、治療、休息の家、サナトリアム、海水浴場、保養地等を含む。一九三五年にこの部分に對する支出は二一億六、四九一萬ルーブルであつた。しかし、この金額はソヴェート的年金と全く同額である。政府の配慮及びこの支出の大部分は勞働大衆には向けられず、ソヴェート社會の特權的社會層に向けられる。指導機關自身がソヴェート聯邦における社會保險が極めて悪い狀態にあることを認めてゐる。保健人民委員カミンスキーはモスクワにおける一九三六年初頭一、〇〇〇人に對して六・三臺の寢臺しかなかつたことを認めた。(註一)同じ頃、同じくモスクワには治療を必要とする程の佝僂病にかつた幼兒が五、〇〇〇人もゐた。しかるに、その頃モスクワの全病院はこれらの罹病幼兒を收容するために七〇臺の寢臺しか準備してゐなかつた。その當時ソヴェートの指導者達がこれら幼兒の健康を保持するために凡ゆる配慮を拂つたことは確かである。

(註一)　一九一三年にはモスクワの病院は一〇〇人に對して七・四臺の寢臺を準備してゐた。

更にソヴェート聯邦においては病人が「高位」者であるか普通の人民であるかによつて、保養地、サナトリアム、休息の家、海水浴場においても差別待遇を受ける。勞働者の使用に供されるサナトリアム及び休息の家は、假令これらが昔の宮殿内に建てられてゐる場合でも、一樣に兵營のやうな建物である。その場合年金受領者は假令彼が病氣であらうが單なる保養であらうが、絶えず監視され、嚴格な規律を適用され、一定時間の勞役に服し、軍事的豫備教育を受け、且つ屢々報告を書かされ、政治的宣傳の集會に出席しなければならない。彼等は屢々一室に三〇人乃至四〇人の割合で各部屋に分宿する。而も大抵の場合特權者の使用に供せられるサナトリアムは彼等の建物のすぐ近くに建てられてゐる。そこで特權者達は分離された部屋或は天幕を一人で獨占し、食物は上等で豐富であり、小間使が靜かな歩取りで巡回し、自分の勝手に時間を過し、嫌な刺戟的な宣傳は禁止されてゐる。ソヴェート政府が醫療費の名目で勞働者の社會的扶助事業に支出する約二〇億ルーブルの大部分は特權者達の使用に供せられる、これら休息の家、海水浴場、サナトリアムに費されてゐる。(註一)

(註一)　一九三五年二月一日の「イズヴエスチヤ」は紙一九三五年におけるサナトリアム、休息の家等の收容人員數を發表した。それによれば、三〇〇萬人のモスクワ市民の内、二、〇〇〇人が無料或は割引價格で海水浴場及び保養地を利用し、七、〇〇〇人がサナトリアムを利用し、五萬人がモスクワ近郊の休息の家を利用した。最後に擧げた普通勞働者の使用に供される休息の家に就いてエム・イボンは「そこでは規律の他に饑飢と僞善と南京蟲がある」と云つた。「イズヴエスチヤ」紙の發表した數字の眞實の證明を得るためには、同紙は「勤勞民」と云ふ定義の内に普通の勞働者だけでなく責任ある技術者及び工場の管理者をも含めてゐるといふことを忘れてはならない。「保養地、海水浴場及び休息の家を一度でも訪ねて見るならば直ちに次のことを理解するだらう、休息の家が高級となればなる程工場管理者及び技術者の數は增加する、第三流の兵營式の休息の家には彼等は一人も居ないが、最新式の海浴場及び保養地においては一〇〇%に達する。」(エム・イボン、上掲書三七及び三九頁)他方またソヴェートの習慣に非常に通じてゐるアメリカ人勞働者アンドルウ・スミスはその著書で、普通の勞働者がソヴェート聯邦のサナトリアムで受ける殆んど罪人的待遇に就いて述べてゐる。(アンドルウ・スミス「私はソヴェート勞働者であつた」一九三六年、ニユー・ヨータ、二一四―二六頁)

かくてソヴェート聯邦においては、社會保險は勞働者の狀態を改善するためには大した役割を演じない。この社會保險の主要な利益の享受者は、凡ゆる點からみて普通の勤勞民とは比較にならぬ程の豐かな、愉快な生活を送つてゐる人々である。ソヴェート聯邦における社會保險は全能なる政府が極度の殘酷さを以つて搾取する人々に對して屢々分け與へる眞の施物に他ならない。

外國勞働者の狀態とソヴェート勞働者の狀態との比較

スターリンの工業化政策時代におけるソヴェート勞働者の生活水準がネツプ時代のそれに比較してさへ極めて低いとすればヨーロッパ及びアメリカの勞働者の生活水準と對比して如何に慘めなものであらうか。(註一)

(註一)　ソヴェート勞働者の狀態がヨーロッパの勞働者の狀態に比較して――殊にソヴェート勞働者の低賃銀を考慮に入れて――如何に慘めなものであるかを理解するためには、最も一般に使用されてゐる製造品を取り出して、生活費が非常に高い國であると云はれてゐるフランスにおけ

る、それらの價格とソヴエート聯邦における價格とを比較して見れば充分である。モスクワでは皮靴一足三〇〇ルーブルであるから、一ルーブルは四二五フランとして換算すれば一、二七五フランに相當する。之れに對して、パリーでは同樣な靴一足八〇乃至一〇〇フランである。從つてモスクワではパリーより一二倍も高い。モスクワでは綿布一メートル少くとも六ルーブル、卽ち二五フランである。之に對して、パリーでは三・五〇フラン乃至四フランである。從つて七倍高い。モスクワでは毛織布一メートルが少くとも五〇ルーブル、卽ち二一二フランである。之に對して、パリーでは一二乃至一四フランである。モスクワでは木綿の婦人用靴下が一足三五ルーブル卽ち一四九フランである。之に對してパリーでは一二乃至一六フランである。同樣に全ての食料品は例外なくソヴエート聯邦においてはフランスにおけるよりも著しく高い。ロシア民衆の間で最も廣く使用されてゐる「國民的」飲料たる茶でさへ同樣である。所謂「ゲオルギア」產及びカウカサス產の最も普通の茶が一キロ八〇ルーブル、卽ち三〇〇フランである。フランスにおいては同品質の印度支那產の茶が三七フランである。從つて九倍も安い。以上に擧げた價格は全て一九三七年春における價格であり、フランスの價格は「オリオール・フラン」で表はされてゐる。

一九三六年に、ヨーロッパ及びアメリカ合衆國で數種のソヴエート印象記が出版された。これらの著者達は單なる旅行者としてロシアを訪れたのではなく、經驗ある技術者として研究旅行をなしたか或は勞働者の日常生活を直接體驗した人々であつた。これらの人々の印象記は長期間に亙る統計に基いた研究ではないが、屢々長期間の苦い個人的經驗の結果である。これらの印象記が同一の結論に達し、著作達はいづれも遠隔な地方に生活し而も互に全然面識がないのであるから、彼等の引き出した同樣な確證は殊に價値あるものである。

これら數種の著作において、著者達が共通に認めてゐる最も特徵的な點はソヴエート聯邦における極度に高い生活費、從つて勞働者の極めて低い生活水準である。一九三五年秋にロシアを訪れたフランスの大工業家エルネスト・メルシエ氏は高い生活費の問題について次の如く述べた。「モスクワにおける小賣商人の附ける價格によれば、食料品及び流行品に關する限り、モスクワ市場におけるルーブル價値はその當時殆んど〇・七五フランを超えなかつた。」(註一)

(註一)「ソヴエート聯邦」、エルネスト・メルシエの感想記。パリー、一九三六年、三九頁。

一ルーブルが七五サンチーム(「ポアンカレー」フランで)の平價は、場合によつては全然正確なものではあり得ない。ルーブルの購買力は當然勞働者が購買する生產物の種類によつて變動する。しかし、メルシエ氏の斷定は事實の豐富な觀察に基いてゐるのであらうから、その實際上の眞理を全然否定することは出來ない。勿論、ソヴエート勞働者の平均賃銀の購買力はフランスにおける失業手當のそれよりも低いと云ふ、同じ著者の他の斷定は日常生活によつて實證される。概して、エルネスト・メルシエの著書はロシア勞働者の狀態に對する多くの皮肉で滿たされてゐる。「殊に或る種の雜役夫、就中大都會を離れた驛の赤帽を見るならば、誰れでもその生色なき面貌から陰鬱な絕望を感じて驚かされる。」同書は結論の一つとして次の如く述べてゐる。「革命の十八年後に勞働者がかゝる困難な狀態の下に生活してゐるといふ事實の中に、明かにソヴエート體制の主要な危險の一つを見ることが出來る。……ソヴエート政府はかゝる考へに立つて、諸國の勤勞者の狀態に關する外國からの報告がロシア國內に齎されることを凡ゆる手段によつて防止し續けてゐる。」(註一)

(註一)　エルネスト・メルシエ、上掲書、五八及び四二頁。エルネスト・メルシエ氏は同書の他の場所で、更に「モスクワでは數千萬の勞働者が一部屋に五人もで生活してゐるのに、政府は同市における住宅問題の解決には十年間を要するだらうと聲明してゐるを忘れてはならない」と述べてゐる。(五二頁)フランス工業家の觀察は大部分北部鑛山勞働者組合書記のクレーベル・ルゲエの結論によつて裏書きされてゐる。「フランスの鑛山勞働者と同額の購買力を得るためには、ロシアの鑛山勞働者はフラン額と同額のルーブルを得なければならない。一日五乃至七ルーブルしか得られない男女勞働者が、家族を扶養するのに一〇乃至一二ルーブルを要するのに、家族手當も受けずにどうして生活してゐるかは不思議である。」(「ル・ポピュレール」紙、リール地方版、一九三七年二月二十二日)クリーベル・ルゲエは上掲書(八一頁)で、ソヴエート聯邦における衣服費に就て次の如き價格を示してゐる。「男子用護謨底短靴——二九〇ルーブル、婦人用護謨底短靴——二八〇ルーブル、男子用外套並等品——三五〇ルーブル、八歲乃至十歲用の男兒服——二二八ルーブル。」かくて一九三七年十一月以前には、月額一一〇乃至一一五ルーブルを得てゐた賃銀勞働者は年收入の殆んど四分の一をこれら衣服品の購買に費さねばならなかつた。

エルネスト・メルシエ氏の觀察は、一九三三年より一九三六年までカウカサスのトウブセで揮發油製造所に雇はれてゐたスイス人技師ネ・グロクロード氏のソヴエート勞働者の狀態に關して語るところと殆んど一致する。卽ち「ロシア勞働者の平均賃銀月額である二〇〇ルーブルでは彼等の生活は樂ではない。彼等は何を購買し得るか。彼等の工場の消費組合は一日三〇

〇グラムのパンと二箇月毎に五〇グラムの砂糖しか供給しないのだ。その他のものは自由市場で購買しなければならない。自由市場では牛酪一キロ三二ルーブルであり、肉は一キロ一二ルーブルであり、牛乳一リットル二五・〇ルーブルであるから、結局二〇〇ルーブルがそのために費されることになる。三揃の服は四〇〇ルーブルであるから六〇日分の勞働に當る。一足の靴は一五〇ルーブルだから二二日分の勞働に當る。外套一着二五〇ルーブルだから三七日分の勞働に當る。……數箇月後、私はスイスの歸途ネゴレロエの稅關を通過しながらソヴエート政權の達成した實績を示す統計圖表を見た。私は更にソヴエートの巨大工場を實際に見てきた。私は驚らくべき統計數字の實體を知つてゐる。私は世界中で最も自由な勤勞民が如何に監視を受けてゐるかを見てきた。私は何故この國が諸外國から遮斷されてゐるか、何故ロシアの勞働者が何等の理由なしに國外へ出ることを禁じられてゐるのかを理解した。……ヨーロッパには多數の失業者がゐる、しかし全ての人が食ふことが出來る。之に反して、ロシアでは全ての人が働いてゐる。しかし彼等は全て飢えてゐる。(註一)

(註一)　ルネ・グクロード氏のソヴエート聯邦に關する印象記は一九三六年十一月三、四及び七日の「ジユールナル・ド・ジエネーブ」紙上に發表された。

フランスの工業家エルネスト・メルシエ及び勝れたスイス人技師ルネ・グロクロードの意見は、非常な熱情を拖いてソヴエート聯邦を訪れた、純粹の勞働者であり共產黨員であるアメリカ人アンドルウ・スミスの觀察と全然一致する。

モスクワで勞働者として働いたアンドルウ・スミス氏はソヴエート生活の裏面を知ることを敎へられた。それ故に、彼のソヴエート聯邦に關する報告は知名な旅行者の皮相的な印象と全然混同されてはならない。アンドルウ・スミス氏の報告によれば、モスクワ自動車工場には一、一〇〇人の勞働者が働いてゐる。彼等は五〇〇人毎に一團となつて木造の寄宿舍に分宿してゐる。そこで彼等は蕪蒲團や乾いた木の葉を詰めた袋の上に寢てゐる。彼等は毛布も枕も持たない。彼等は脫いだ着物を掛けて寢る。洗面所がないので、勞働者は庭にあるポンプの水で洗ふ。彼の賃銀は月額一〇〇乃至一五〇ルーブル、卽ち三乃至五ドルである。最下等の肉でさへ一キロ三ルーブルもするのに、この賃銀で生活しなければならない。靴の下等品が五五ルーブル、卽ち月收の半額に相當する。しかし、賃銀は決してその全額が勞働者の手に渡る譯ではない。その內から國債〇%)、文化稅(二%)、勞働組合費及び種々な國民的及び社會的組織への醵金を引き去られる。モスクワの工場で數年間勞(一働に從つた後、アンドルウ・スミス氏は共產黨を脫退し、アメリカに歸國するや直ちに彼の同胞に對して、ソヴエート聯邦で勞働に從事せんとする者の陷入るであらう不幸な運命に就て忠告を發した。「アメリカ合衆國の失業者はソヴエート聯邦の勞働者より良い生活をしてゐる。ロシアの人民はアメリカの勞働者や失業者さへもが塵埃箱に捨てるやうなパンを食ふことが出來れば寧ろ幸福である」とアンドルウ・スミスは述べてゐる。(註一)

(註一)　アムドルウ・スミス「私はソヴエート勞働者もスミスと同樣な印象記を發表した。(「再度の逃走」勞働者版、ウイーン、一九三六年)

た五人のオーストリヤ勞働者もスミスと同樣な印象記を發表した。(「再度の逃走」勞働者版、ウイーン、一九三六年)

以上のフランス工業家、スイス人技師及びアメリカ勞働者の判斷と英國勞働組合書記長である英國人シトリンの如き勞働問題に關する大家の意見を比較してみることは興味がある。

シトリン氏によれば、ソヴエート勞働者の平均賃銀月額は一九〇ルーブル(「スコロホード」製靴工場)乃至二五〇ルーブル(キーロフ機械工場)である。シトリン氏が入露した一九三五年の秋頃のルーブルの購買力は同氏の評價によれば、寧しろルーブルを過大に評價してもポンドの八〇分の一に過ぎなかつた。勞働者が無料醫療施設、サナトリアム、保養旅行、有給休暇、廉い家賃、兒童敎育、年金等の形態で享受する利益は、シトリン氏の評價によれば、よく見積つて貨幣賃銀の三分の一の補助に相當する。更に同氏は次の如く結論する。卽ち「私はソヴエート勞働者の平均週賃銀は製靴工業において一五シルリング一〇ペンス、金屬工業において二〇シルリング一〇ペンスに相當するといふ結論に達した。更に、私はこの金額に三分の一を增額した。かくて週賃銀は最低二一シルリング一・五ペンス、最高二七シルリング九・五ペンスとなる。」(註一)

（註一）ウオルター・ジトリン「眞實のロシア」ロンドン、一九三六年、三三四―三三五頁。

ソヴェート聯邦における勞働大衆の生活水準

かくて、ソヴェート經濟制度の達成した成功の證據として引用した全ての事實は、ロシア勞働者の賃銀水準が極めて低いといふ基本的事實によつて否定される。勿論、既に述べた如く、一般的平均より非常に高度な生產能率をあげて、累進出來高拂制（註一）によつてその同僚とは比較し得ない程の高率な賃銀を得たドネツツ流域の鑛山坑夫スタハノフの模倣者、即ちスタハノフ員の例を我々は知つてゐる。一九三五年にスタハノス員の賃銀收入は月額一、〇〇〇ルーブル、一、五〇〇ルーブル、更に二、〇〇〇ルーブルまでにも達した。而も、その最低は七〇〇乃至八〇〇ルーブルであつた。一九三六年には彼等の賃銀は月額一、五〇〇、二、二〇〇、二、六〇〇、三、五〇〇、三、七〇〇、更に、四、五〇〇ルーブルまでにも達したし、現在においてもさうである。（註二）

（註一）この制度は事實上次のことから成り立つ。即ち一日分の生產高規準（メートル、トン、個數で）及び一單位當りの標準的評價が決定される。これら二要素を乘け合せれば標準的賃銀額が得られる。しかし、生產高が規準を超えた場合には生產單位の價格はそれに比例して增大する。かくて、石炭業においては、規準の一〇％の超過は一單位當り價格を二倍にし、一〇％以上の超過は單位當りの價格を三倍にする。

（註二）スタハノフ員の賃銀收入については「ザ・インドウストリザアチユ」紙の一九三五年十一月十五、十六、十七日及び一九三七年五月一、九、十四日の紙上から引用した。

勿論、これらのスタハノフ員は相當に良い生活をしてゐる。（註一）しかも彼等は非常に少數である。しかし、ソヴェートの一般的經濟狀態及び人民の需要の充足の程度を評價するに當つてスタハノフ員の狀態を考慮に入れることは、政治警察（舊ゲ・ペ・ウ）の高位者の物質的福祉及び贅澤を以つて、ロシアの一般的生活水準を律すると同樣に誤りであるだらう。（註二）

（註一）一九三五年十一月モスクワで開催されたスタハノフ員大會で、これら高賃銀を得る勞働者が衣服及び靴に費す金額に關する極めて興味あるが提出された。一女スタハノフ員の語るところによれば、彼女は一八〇ルーブルの短靴、二〇〇ルーブルの服、七〇〇ルーブルの外套を買つた。（「ザ・インドウストリザアチユ」紙、一九三五年十一月十五日）フランスの勞働者であれば、確かにそれより遙かに安い物を買ふだらう。

（註二）アンドルウ・スミスの著書にはゲ・ペ・ウ官吏の奢澤な生活に關する雄辯な記述がある。アメリカ版五〇―五一頁。

之に反して、先に述べた勞働大衆の生活水準は大部分のロシア人民の生活水準を示すものである。國の工業化の結果、現在のソヴェート聯邦にはその扶養家族を除外して二、四五〇萬の賃銀勞働者がゐる。ビクトル・セルジュの如き信用し得る共產主義者でさへ、ソヴェート聯邦における生活の多くの觀察に基いて、一般勞働者はスターリンの社會主義的條件の下においてより革命前のロシアにおいての方がよい生活をしてゐたといふ絕對的な結論に達した。（註一）

（註一）「革命前の方が生活が樂だつたか。四十錢位の人達は衣食住の三條件を根據として、皆口を揃へてこのことを肯定した。……母親達が、宗教的祭日に御馳走を作つたり、果子や果物の砂糖煮やクリームを食べたりして、樂しい時を過すことを全然知らない子供達を不憫がるのを私は屢々聞いた。」（ビクトル・セルジュ「革命の運命」パリー、一九三七年、一七頁。）

ソヴェート聯邦における一般知識階級の生活水準は、假令勞働者におけるよりも非常に高い精神的要求を考慮に入れても、一般勞働者の生活水準と大きな隔隔はないやうに思はれる。「フランス電氣療法及びX線術協會時報」の一九三六年十月號に、ロシアの醫療施設の組織を研究するために同國で一箇月間過したデニエ博士の通信が發表された。同氏は「實驗醫學研究所」における科學的設備を賞讃した後、更に科學的研究に從ふ醫者と實際家との著しい差別待遇に言及した。「二或は三の職務に從つてゐる醫者の賃銀は普通四〇〇ルーブルに過ぎず、生活に事缺いてゐる。……彼は家族と共に、食堂、寢室、書齋、調理場兼用のたつた一つの部屋で生活してゐる。……ロシアにおける我々の同僚が最も悩まされてゐることは個人主義の廢止である。彼は當然他の一般的な物質的生活及び知的生活がどうであるかを考へざるを得ない。しかし、ロシアでは政府機關紙、公認著書、公認文學、僅かの職業教科書を讀むことが出來るだけなのだから全ての人々に共通である。更に、ルーブルは國內通貨であるから外國の雜誌も書籍も購入することが出來ない。國外に出ることは全然禁じられてゐるので、外國の大會に出席することも出來ない。……我々の同僚の生活狀態は悲慘なものである。しかし、最も唾棄すべきは道德的壓迫である。」（上掲「時報」三六八―三六九頁）

コルホーズ農民の生活水準

國民の基礎をなす農民の生活水準を數的に表現することは遺憾ながら不可能である。農民は全體として尙自然經濟を營んでゐるし、殊に自己の生産物を消費して生活してゐる。しかし、ソヴェート經濟制度の下において各農民が個人的に消費する穀物量の充分正確な觀念を得ることは可能である。過去と同樣現在においてもパンはロシア農民の基本的食物である。兎に角、パンの缺乏が生ずるやうなことがあつても、そのパンの缺乏の結果直ちに他の食物を以つて之れに代へることは一般的に困難であるといふことは確かである。その時は國民は飢餓に陷入ることになる。

ソヴェート統計によれば、ロシアにおける小麥の總收穫高は次の如くである。(註一)(單位百萬キンタル)

一九一三年	八〇一・〇	一九三二年	六九八・七
一九二八年	七三三・二	一九三三年	八九八・〇
一九二九年	七一七・四	一九三四年	八九四・〇
一九三〇年	八三五・四	一九三五年	九二〇・一
一九三一年	六九四・八	一九三六年(計畫)	一、〇四七・六

(註一)「ソヴェート聯邦における農業」一九三五年、二一二頁及び二一頁。一九三六年度の計畫數字は「一九三六年度國民經濟計畫」一九三六年、四三五頁より引用。

ソヴェートは一九三六年度の實收總額を未だに發表してゐない。間接的資料によれば、實收高は計畫高よりも遙かに少ない。これについては後に示さう。

ソヴェート聯邦の總人口は現在約一億七、〇〇〇萬人である。一九三五年の收穫高はそれ以前の數年間の收穫高より多いにも拘らず、一人當り五・四キンタルに相當する。之に反して、革命直前の五箇年間の一人當りの收穫高は六・三キンタルであつた。かくて、一九三六年の人口一人當りの小麥の收穫高は一九一七年以前と比較すれば約二〇%減少した。しかし周知の如く、革命前の農民の小麥消費高は極めて低い生活水準を示すものであつた。

しかし、住民一人當りの年平均五・四キンタルは農民の小麥實收高と著しく相異する。この額は總收穫高をソヴェート聯邦の人口數で割つて得た商であるが、實際上は總收穫の大部分が國民の消費以外に向けられるのであるから、收穫全部が國民の間に分配されるとは云ひ得ない。

ロシア農民の實際の食糧消費高を公平に評價するためには、次の諸條件を考慮することが絶對に必要である。一九三三年以來の公表數字は實收高に基いて評價されてゐるのではなく、立毛收穫に基いてなされてゐる。しかし、立毛收穫から一〇%を減じたものが實收高である。(註二)この問題の研究家は皆一致してこの減少高は一〇%以上であると述べてゐる。從つて、實際上の小麥消費高を決定するには公表數字から少くとも更に一〇%を控除しなければならない。かくて、一九三五年度の實收高は多くとも八億二、八〇〇萬キンタルとなり、その大部分は現物調達によつて政府の手に收められる。最後に、ロシア農業の低い技術的水準は播種のために少くとも一ヘクタール當り一・二五キンタル、即ち約一億三、〇〇〇萬キンタルを必要とする。前記の八億二、八〇〇萬キンタルから、都會に向けられる二億四、九〇〇萬キンタル(註三)、及び播種のための一億三、〇〇〇萬キンタルを減ずれば、殘額は四億四、九〇〇萬キンタルとなる。かくて、農民が現在總人口の七五%を占める、即ち一億二、〇七〇萬人(註三)とすれば、農民一人當りの年消費高は三・七キンタルとなる。而も、農民はこれで人間のみならず家畜をも養はなければならない。

(註一)　一九三四年一月九日の「イズヴエスチヤ」紙のオシンスキーの論文より引用。

(註二)　「ソヴェート聯邦における農業」一九三五年、二一三及び二一五頁。二億四、九〇〇萬キンタルの數字は、他の資料(「プラン」誌、一九三五年第十二號)によれば、一九三四年における國家の調達高が總額二億六、三〇〇萬キンタルであつた事實より考へても決して過大評價ではない。

(註三)　「ソヴェート聯邦便覽」ロンドン、一九三六年版、五五頁。

一九三五年の一農家當りの穀物量に就てなされた計算は決して過小評價ではない。却つて過大評價である。權威あるソヴェ

ート數字によれば、コルホーズ農家の穀物量は先になした計算から推定し得るよりも更に悪い狀態にあることを示してゐる。

一九三四年末ロシア、ウクライナ及び白ロシア共和國の八萬三、二四〇コルホーズに關して行はれた調査は「一勞働日」に就き一農家當りの穀物量を示してゐる。(註一)

一九三二年(一農家當り)……五・五〇キンタル
一九三三年(同　　)……九・八三キンタル
一九三四年(同　　)……一〇・九二キンタル

(註一)「一九三五年度國民經濟計畫」第二版、二二七頁。

一農家の家族が平均四・二人であるとすれば、一人當りの分配額は次の如くである。

一九三二年……一・三〇キンタル
一九三三年……二・三三キンタル
一九三四年……二・五九キンタル

ロシアにおける一人當りの穀物割當額の最少限度は一般に二・五キンタルと評價されてゐた。從つて、不作であつた一九三二年にはコルホーズ農民は標準穀物量の殆んど半分しか得られなかつたことになる。豐作だつた一九三二年には標準量に著しく近づいたが、標準量に達したのは漸やく一九三四年に至つてであつた。しかし、この少量の小麥分配額を以つて更に家畜をも飼育せねばならなかつた。從つて、工業化時代におけるコルホーズ農家の食糧の缺乏は慢性的現象であつた。

一九三六年五月八日の「プラウダ」紙のストルウミリン教授の論文によれば、一九三五年における主要農業生産物の月平均消費額は、パン及び穀物が二・一八キロ、馬鈴薯が一五・九キロ、牛乳及び乳製品が四・〇九キロであつた。ストルウミリンはこの數字に大いに滿足して、ソヴェート聯邦の勤勞民は「ファシスト諸國の勞働者が疑ひもなく羨む」程のパンを日々消費してゐると述べた。かゝる獨斷はソヴェート學者がヨーロッパの勞働者及び農民の生活手段に關して全然無知であること、及び殊に彼等がヨーロッパの勞働者及び農民は前記のロシア人の穀物量より遙かに多量に消費してゐるのみならず、更にソヴェート聯邦の勞働者及び農民が食ふことも出來ない肉類を消費してゐるといふことに無智であることを云ひ現はすに過ぎない。更にストルウミリンの掲げた數字は革命前の人民大衆の食物量は現在のソヴェート聯邦の食物量よりも遙かに豐富であつたことを示してゐることは極めて興味あることである。この問題に關して、全ての故意の疑惑を避けるためには、レーニン自身の著作である「ロシアにおける資本主義の發達」に擧げられた數字と比較することが最も良い方法である。同書によれば帝政時代の一八九二年、サラトフ政府下における農業賃銀勞働者の年平均消費量は穀物が四一九・三キロ、更にラードが一三・三キロであつた。(註一)

(註一)　レーニン「ロシアにおける資本主義の發達」一八九九年、一二六頁。

ストルウミリンの擧げた數字は更に他の方面からも興味がある。これらの數字によれば、スターリンの全ての指令が「基幹分子」の問題に集中されてゐるにも拘らず、農村の强制的集團化以前の農民の穀物消費量は現在よりも遙かに多かつたことが全く明瞭である。殊にこの觀點から、ソヴェート統計によれば九億二、〇〇〇萬キンタルの收穫量を示した一九三五年と七億三、三〇〇萬キンタルの收穫しかなかつた非常に不作であつた一九二八年とを比較すれば更に明瞭である。「プラノヴォエ・ハジヤイストヴオ」誌(註一)によれば、一九二七年十月より一九二八年十月に至るソヴェート聯邦における一人當りの消費量は穀物が二九八・八キロ、馬鈴薯が一四九・七六キロ、牛乳(乳製品を除外)が一一一・三六キロであつた。かくて第二次五箇年計畫の進行とともに、大衆のパン及び牛乳の消費量は强制的集團化以前の殆んど飢餓狀態にあつた一九二九年におけるよりも遙かに低下した。最近の數字と比較して只馬鈴薯の消費量のみが一九三五年に增加した。(註二)しかし、この現象こそ極めて不安な徵候に他ならない。即ち過去の經驗によれば、ロシアにおける馬鈴薯の消費量の增大は常にこの國が飢饉に見

舞はれる毎に生じた現象である。

（註一）「プラノヴオエ・ハジヤイストヴオ」誌、一九三二年第三號、一四五頁。

（註二）何故に七億三、三〇〇萬キンタルの平年並の收穫しか擧げ得なかつた一九二八年における平均一人當りのパン消費量が、公表數字によれば九二〇キンタルの收穫を擧げてゐる一九三五年よりも大であつたかは一見理解し得ないが如くである。しかし、この現象は次の理由から說明される。先づ第一にソヴエート聯邦の人口はこの七年間に約一五％增加した。從つて、單に一九二八年と同一水準の消費を維持するためには一九三五年の收穫高は八億四、三〇〇萬キンタルなければならない。しかるに、一九三五年の公表數字は九億二、〇〇〇萬キンタルの收穫高を示してゐる。しかしこの收穫高は立毛穫高で示されてゐるが故に、それから一〇％を減じなければならない。かくて、一九三五年の小麥實收高は當然八億二、八〇〇萬キンタル以下となる。牛乳の消費量の減少は家畜數の減少と殆んど一致する。

更に、「プロブレミイ・エコノミキ」誌一九三七年第二號（九九頁）に、一九三一年より一九三六年に至る間の一ヘクタール當りの平均收穫高に關する公表數字が發表された。プロコポーヴイツチ教授經濟研究所はこの數字に基いて一九三六年の總收穫高を算定した。その算定の結果は同研究所時報第一三七號に發表された。次にその資料を引用しよう。

一九三六年の穀物收穫總額は多く見積つても七億七、〇〇〇萬キンタルである。既に說明した如く、それから一〇％を控除せねばならない。かくて、一九三六年の實收高は六億九、三〇〇萬キンタルとなる。卽ち、一九三一年及び一九三二年の飢饉年よりも以下であつたことになる。

次の比較資料は注目に價する。卽ち、一九一三年の一ヘクタール當りの平均收穫高は八キンタルであつたに對して、一九三六年の一ヘクタール當りの收穫高は六・七キンタルに過ぎなかつた。これはソフホーズ及びコルホーズの集團的形態の上に建てられた農業制度の內に生じた困難の新たな證據である。同「時報」の筆者の評價によれば、一九三六年の不作は「ソヴエート政權の政治的危機を著しく擴大深化し、」更に共產黨內における對內的困難を促進した。

これらの諸事實は農業革命及び農業集團化以來、其國民の基本的食糧である小麥の消費高はその生活に必要な最低限度すら農民に保證せられなかつたといふ根本的證明と一致する。

コルホーズ農民がコルホーズの管理者から現物給附の他に受け取る貨幣額は極めて僅少なものである。「プラウダ」紙の證明するところによれば、一九三六年における「コルホーズが農民に對して給付した平均貨幣額はコルホーズ農家の全貨幣所得の僅かに一〇％に過ぎない。」（註一）かくて、コルホーズ農家が必要な製造品を購買得るのは主として小住宅附屬地より得たる收入によつてである。かゝる狀態にあることはソヴエート新聞によつては殆んど知ることが出來ない。（註二）

（註一）「プラウダ」紙一九三七年四月十九日。

（註二）「勞働日」に對して貨幣で給付される割當額は一九三六年には極めて僅少であつた。從つて、小住宅附屬地より得る生產物の販賣、殊に家畜の販賣はコルホーズ農家の貨幣收入の本質的源泉であつた。（「プラウダ紙」一九三七年四月十九日）

家畜數

コルホーズ農家に對する小麥の給付額が不充分であるといふ事實は、既に述べた如くロシア農村の主要な動產である家畜數の絕對的減少が集團化の結果生じたので、更に一層重大な意義を持つに至つた。

家畜の恐るべき大殺戮は單に行はれ始めただけで、それ程大きな影響を及ぼした譯ではない。それにも拘らず、現在のロシア農村の家畜數はネツプ時代或は革命前よりも尙遙かに減少してゐる。その結果、現在における一般國民及び農民の動物性食料品の消費額はネツプ時代及びそれ以前の消費額よりも三〇％乃至五〇％減少してゐる。

農村における畜產は再び發達し始めた。現在においては、コルホーズ規約の改正（一九三五年二月）の結果小住宅附屬地におけるコルホーズ農民の個人的自由が認められたので、家畜の飼育は農家經營において再び大なる役割を占めるに至つた。

諸種の動物の內、殊に牝牛及び豚の諸農業經營形態への分配狀態に關する數字は最も興味あるものである。（註一）

年度	ソフホーズ	コルホーズ	コルホーズ農家の個人的經營	個人農
牝牛の分配				
一九三四年	一、七五五・三	三〇、九五五	九、五六六・〇	二、六四六・四
一九三五年（推定）	一、七三二・二	三四、〇四四	二〇、九五五	一〇、三三六
一九三六年（計畫）	一、七五七・〇	四〇、〇〇〇	二〇、〇三二・〇	一〇、四四・〇
豚の分配				
一九三四年	三、五七・四	三五、二・六	六、七五五	一、四三〇・九
一九三五年（推定）	四、二二・九	五、一〇・九	三、三二五	九、五九
一九三六年（計畫）	四、七四・七	七、三〇〇	一、六六〇・〇	九、八九・四

（註一）「一九三六年度國民經濟計畫」一九三六年、第二版、モスクワ、四四〇—四四一頁。

これらの數字はコルホーズ農家が小住宅附屬地で個人名儀で飼育する牝牛及び豚の頭數は、コルホーズ全體の數よりも大であることを示すばかりでなく、更に畜産の分野における個人農の役割は尚大なるものがあることを示してゐる。一般的に全牝牛頭數のうち集團農の占める割合は二五・八％であり、全豚頭數のうち同じく集團農の占める割合は二六・二％である。かくて、この國民經濟の重要な分野における個人經營の完全な絶滅は尚前途遼遠である。

一九三六年末以來、畜産の發達が再び大きな問題となつた。同年にソヴェート聯邦の一地方における收穫の減少を惹き起した旱魃の結果、若干の地方においては家畜の增加が停止し、更に莫大な數に上る家畜が死亡した。（註一）ソヴェート當局が一九三七年度の畜産計畫を發表しないのみならず、一九三六年度の畜産計畫の實績に關する決定數字を發表しないのは恐らくこの不良狀態の結果であるだらう。

（註一）ソヴェート聯邦農務人民委員の聲明によれば「ヴオルガ地方及び非黑土地帶の諸地方における糧秣の不作が、畜産を不可能ならしめた結果、非常に切迫した事態を生ぜしめた。從つて家畜の增加ではなく、「一九三六年七月の最低水準を維持し、冬期に生れた家畜數を保持する」ことが前記の諸地方におけるコルホーズに課せられた問題となつた。「糧秣は注意深く節約して使用し、亂費しないことが肝要であり、殊に藁を大切にしなければならない。森林地帶においては藁の代りに木の枝を大いに使用する必要がある。」同委員部はソヴェート聯邦の多くの地方において畜産が極度の危機に陷入つたことを認めざるを得なかつた。かゝる事態の下において、農村人口が極度の食糧難に陷入り、食糧需要の激化が生じたのは寧ろ當然であつた。（「ソツイアリスチーチエスコエ・ゼムレゼーリエ」紙、一九三七年三月一日）

農村における人口過剩

コルホーズの所有する家畜數は前掲のパーセンテージの示す如く極めて少數なので、殊に土壤の性質上適度な收穫を擧げるために多量の厩肥の使用を必要とする地方においては、それによつて農業經營の收穫率を强化するといふことは問題とならない。

しかし、このことはソヴェート聯邦における土地及び農業勞働の生産能率を促進するための唯一の障碍ではない。

農村の集團化は、他の諸結果と共に、ソフホーズ及びコルホーズの播種面積の擴大、及びそれと並行して個人農の播種面積の減少を惹き起した。（註一）一九三五年におけるソフホーズの播種面積は全播種面積の一二・二％であり、（コルホーズ農家の小住宅附屬地を含めて）コルホーズの播種面積は八二％であり、個人農の播種面積は五・二％であつた。（註二）次に示す一九三四年における農業經營の平均播種面積はソヴェート統計から轉載したものである。

ソフホーズ（一經營當り）……一、六七三・〇〇ヘクタール
コルホーズ（同　　）……四二〇・〇〇ヘクタール
個人農（同　　）……二・五二ヘクタール

コルホーズ農家の小住宅附屬地　（一經營當り）……　〇・二〇ヘクタール

（註二）「ソヴエート聯邦における農業」一九三五年版、二〇三―二〇四頁。

（註三）この表には勞働者及び勤務員の耕作する極めて僅少な播種面積（〇・六％）は含まれてゐない。

かくて、農村の集團化時代は大規模な農業經營を創造し、現在これはソヴエート聯邦における明かに支配的な經營形態である。しかし、假令ソヴエート政權が偉大な强制力を以つて小農民經營を大農業經營に機械的に併合し得たとしても、この經營形態は結局大規模經營及び小規模經營の共有する利點を喪失し、之に反してその缺點を保存してゐる。既に述べた如く、コルホーズの播種面積がソヴエート聯邦の全播種面積の八二％を占めてゐることは確かな事實である。しかし、コルホーズの土地面積と勞働能力のあるコルホーズ員の數とは、コルホーズに併合された舊農民經營の全面積及び勞働者數とに全然等しい。從つて、コルホーズは事實上廣大な土地面積を有するが、しかし全播種面積は依然として大きな勞働餘力と比較して見る時は極めて不充分である。全體として、ソヴエート聯邦におけるコルホーズの一勞働者當りの播種面積は平均二・九五ヘクタールである。之に對して、ソフホーズにおいては六〇九ヘクタールである。この一事實はコルホーズ農家が疑ひもなく合理的に使用し得ない勞働力の過剩に惱まされてゐることを示してゐる。（註一）

（註一）これらの數字は「ソヴエート聯邦の農業」一九三五年版、六四一頁より引用。

かくて、コルホーズは單に大規模農業經營の形態を持つに過ぎない。その內部的構造は事實上小農民經營に個有な缺點、即ち土地面積の不足、勞働力の過剩、低い勞働能率及びそれらの結果の一つとしてのコルホーズ農家の悲慘な物質的狀態を保存してゐる。農業における機械化の發達は年々ロシア農村における人口過剩を激化してゐる。

この極度の困難を解決するためには、畜產業を促進し、播種面積を急速に擴大し、農業の生產能率を强化し、コルホーズ經營の經濟的竝びに技術的全制度を徹底的に改造することが必要である。これは極めて複雜な問題であり、コルホーズ經營の原理自體が個人的經營の基礎である個人的發意と利益の强力な刺戟を無視する程度が大なれば大なる程益々この問題の解決は困難である。

工業製產品の不充分な配給

人民大衆に對する工業製產品の供給の問題も、同樣に現在未だ滿足な解決が與へられてゐない。しかし、この問題が解決せられざる限り、國の一般的經濟に均衡を保たしめ且つ順調に發達せしめることは不可能である。更にまた、この問題は政治的な基本的な重要性を持つ問題である。

フランスの工業家エルネスト・メルシエの如き充分な判斷力を持つ觀察者の言によれば、ソヴエート政權其自體の存立を脅かす最大の危險は疑ひもなく諸經濟部門間におけるこの不均衡である。この著者の意見によれば、ソヴエート經濟政策の楔石ともいふべき重大問題は消費財の生產を出來得る限り擴大することである。ソヴエート聯邦における重工業と消費財工業との大きな不均衡の結果、その最も基本的な要求を充たされない人民大衆はやがて政府に反抗するに至るであろうと、彼は正しく斷定する。殊に消費財の缺乏が續く限り勞働者の實質賃銀は極めて低い水準に維持されるであらうから、ソヴエート勞働者はかゝる反抗を示すであらう。その消費財工業を充分に發達せしめ得ないならば、「事實上ソヴエート國家は逃れ得ざる螺磐に捕へられ悲慘な運命に陷入るであらう。……何故なら、現在の如き完全な孤立狀態にロシアを無限に維持し得さるに至るであらうから。」（註一）

（註一）エルネスト・メルシエ、上揭書、四三―四四頁。

「我々は既に第一次五箇年計畫時代に重工業の發達のために消費財工業が犧牲にされたことを示す數字を引用した。今や實質賃銀及び人民に對する日常消費品の供給の視角からより詳細に消費財の生產高を檢討しやう。

第一次五箇年計畫の實績に關する報告書によれば、輕工業は重工業に並行して發達し、且つ一九二九年より一九三二年に至る四箇年間に輕工業の生産額は八七％增加した。しかし實際の狀態は全然異つてゐた。若し工業を生産手段を生産する重工業と消費財を生産する工業（卽ち輕工業及び食料品工業）との二大部門に分つならば、各部門の生産高は次の如く表はされる。

大　工　業（單位百萬ルーブル、但し一九二六―二七年度價格）（註一）

年度	生産財の生産高	消費財の生産高
一九二九年	一〇、四一四	一〇、八二九
一九三〇年	一四、七三七	一三、〇二二
一九三一年	一九、〇九二	一五、一二七
一九三二年	二二、一八五	一六、六四六
一九三三年	二四、六二九	一七、六三二
一九三四年	二九、九〇〇	二〇、七〇〇（註二）
一九三五年	三六、八〇〇	二五、一〇〇（註三）
一九三六年（計畫）	四五、二〇〇	三一、八〇〇

（註一）「一九三六年度國民經濟計畫」第二版、モスタワ、一九三六年、三九二頁。

（註二）豫定額。

（註三）一九三六年五月十二日付の「イズヴエスチヤ」紙は一九三六年の一月より三月までの工業計畫實績に關して次の如き報告を發表した。この期間内の全工業生産額は一六三億二、三〇〇萬ルーブルであり、一九三五年の同期間における生産額より三一・八％の超過を示してゐる。二大部門別に示せば次の如くである。

生産財の生産……一〇〇億ルーブル＝三五・八％

消費財の生産……六三億ルーブル＝二六・〇％

財務人民委員ダリニコの報告によれば、一九三七年には生産手段の生産は一九・五％の增加を、消費財の生産は二〇％の增加を示すであらう。（「プラウダ」紙、一九三七年一月十二日）かくて一九三七年においても依然として兩工業部門間の不均衡が存するであらう。

上揭表によれば、消費財の生産は非常に著しい發達を示してゐる。しかし、人民の苦情及びソヴェート聯邦を訪れた外國人の極めて悲慘な狀態に關する確言によれば、かゝる消費財生産の發達を肯定することは出來ない。假令上欄（生産手段の生産額）は或る程度の修正を施して大體正確なものとして受け容れられるとしても、下欄（消費財の生産）は故意の省略をなしてゐることを確かに讀み取ることが出來る。今玆にソヴェート統計の全數字を詳細に分析することは出來ない。次に只二、三の統計方法を暴露するに止めやう。

第一の例。ソヴェート統計はリンネル製造業によつて創造された生産價額を輕工業の數字に含めてゐる。公表資料によれば、一九三二年のリンネルの生産額は一九二八年の生産額より三、五〇〇萬メートルの減少を示してゐるに拘らず、如何にして生産價額の增加が生じたか。一九二九年以前には亞麻の第一段の加工は農民によつてなされてゐた。從つて勿、論國營工業の統計には全然含められなかつた。しかし、同年以來その大部分は國營工場によつて加工せられるに至り、一九三二年末には國營加工工場の數は三五〇となつた。かくて、リンネル生産によつて創造された生産價額は、增加價額として全工業の統計に含められるに至つた。しかしソヴェート統計は、この「生産價額」は一九二八年には全然計算に入れられなかつた農民の加工に相當するものであるが故に、全然擬制的なものに過ぎないといふことを全然無視してゐる。

第二の例。國營工業は一九三二年には七、二〇〇萬足の靴を市場に供給した。之に對して、一九二八年には約三、〇〇〇萬足であつた。しからば靴の生産額は事實上增加したか。ソヴェートの公表數字によれば確かに增加してゐるが、事實上は增加してゐない。第一次五箇年計畫の開始以來國營工業は全國の皮革を獨占し、個人による皮革加工業は禁止され、之を犯し

た者は處罰され、投獄された。かくて、私的製靴業者は皮を得ることが出來ないので廢業した。公表統計は國營工業における靴生額産の增加を示してゐるが、しかし私的製造業の消滅を全然無視してゐる。

第三の例。一九三〇年に食料品工業人民委員部が創設された。同人民委員部の權限は製粉業、製パン業、及び獸肉、鳥肉麥粉、生果、野菜の購買及び販賣其他の諸分野に及んだ。「統計上」消費財の一般的生産額を一九二九年の一、〇八〇萬ルーブルから、一九三〇年の一、三〇〇萬ルーブル、更に一九三一年の一、五一〇萬ルーブルに增加し得たのは、全く食料品工業人民委員部の活動の結果である。しからば、果して同期間内に消費財の生産額は實際上五〇〇萬ルーブル（以上の金額は凡て一九二六―二七年の不變價格に換算してある）の增加を示したと解すべきであるか。否、かゝる增加を示してはゐない。食料品工業人民委員部が新設されるまでは、人民はパン粉を購入して自分の家でパンを燒いてゐた。人民はまた配給機關の干渉も受けずに獸肉、鳥肉、麥粉、野菜等を自由市場で購買してゐた。しかし、配給機關の活動は統計に含められてゐるが、以前には自由市場で行はれてゐた取引は全然無視されてゐる。從つて、一九三一年の一、五一〇萬ルーブルの生産價額と一九二八―二九年の一、〇八〇萬ルーブルを比較することは無意味である。かゝる比較は、恰も或る年の生産額として綿織物の生産額をとり、他の年の生産として織物の生産額に肉類、碾割麥、パン粉の生産額を加へたものをとつて比較するに等しい。兩者に共通な大きさ得るためには、一九二八―二九年の數字に同年における自由市場の取引額を加へなければならない。かゝる考慮を加へる時は、第一次五箇年計畫は消費財の增加を來たさなかつたことを認めることが出來る。

第四の例。更にソヴェート統計の方法を說明しやう。ソヴェート統計によれば、國營工業の旣製服の生産額は一九二八年の六億一、九〇〇萬ルーブルから一九三二年には二億二、九一〇萬ルーブルに增加した（一九二六―二七年の不變價格に換算されてゐる）。卽ち、兩期間内に外套、衣服、作業服、洋胯等が四倍に增加したことを示してゐる。しかし、ソヴェートの公表資料によれば、木綿及び毛織物の生産額は減少し、而も全然輸入はなされてゐないのに、如何にしてかゝる增加が生じたか。この問題に解答を與へることは容易である。一九二九年以前には、假令困難であらうとも、國營商店で織物を購買することが出來たので、それを以つて自分自身で衣服を縫ひ、或は小工手業者に縫はせてゐた。一九二九年より一九三一年の間に手工業者は重稅に壓迫されて消滅した。國家は織物の販賣を止めて利潤の大きい衣服の製造を獨占した。かくて、織物は出來上つた衣服、而も一般に出來の惡い衣服の形態でのみ販賣されるに至り、それから得られる大きな利潤は石炭、鐵、銅等の重工業に向けられた。國營衣服製造工業は發展した。しかし、この國に衣服が豐富であるとは未だ云ひ得ない。

かゝる方法を用ひて作られるソヴェート統計は全く當にならない。ソヴェート統計が一九二九年より一九三四年までの間に輕工業及び食料品工業の生産額が一〇八億ルーブルより一七六億ルーブルに增大したことを示してゐるとしても、そは事實を歪曲せるものである。今一歩を讓つて、原料、生産物、國營工業によつて生産された商品が事實かゝる割合で增加したことを容認しやう。しかし、このことはこの國の生産品及び商品總額が絶對的に增加したことを意味しない。假令國營消費財工業が發展したとしても、それは都市及び農村の殊に織物、砂糖、獸肉、鳥肉、野菜等の主要商品の個人的生産の全滅によつて生じた減少を償ふには足りないのである。

同時にまた、他方消費者は更に殘酷な損害を受けたことを忘れてはならない。一九二九年以前には小手工業者及び「クスタリ」は種々の世帶道具を製造してゐた。例へば、バブロフ地方は斧、ナイフ、フオーク、スプーン、鋏、剃刀、鍋、南京錠、ランプの燈口等の生産地として有名であつた。第一次五箇年計畫期間中にこれらの「クスタリ」は强制的に國有化され、フオークやスプーンではなく、トラクター及び建設中の大工場に使用される機械の豫備品を製造させられた。その結果、市場には世帶道具がなくなつた。この問題に就いて「ザ・インドゥストリザアチュ」紙は次の如く述べた。「ドネツ流域地方に行つたことのある人は誰れでも、フオーク、ナイフ、皿の購買は同地方においては困難な、屢々解決し得ざる問題となつたことを知つてゐる。」首府モスクワにおいてさへこれらの世帶道具に不自由するに至つた。一九三二年六月十八日の「プラウダ」紙によ

れば、フルンツエ及び其他の工場食堂においては「勞働者は現在ナイフもフオークも用ひずに食事をしてゐる。」次の數字はどの程度まで手工業が巨大工場に奉仕する工場に轉化されたかを示してゐる。既に述べた如く、パブロフ地方の「クスタリ」は消費者の世帶道具の製造に從事してゐた。しかるに一九三一年及び一九三二年には、政府のこれらの手工業者に課した生産計畫によれば七、〇〇〇萬ルーブルの總生産額の内僅かにその一〇％が世帶道具の生産に向けられたに過ぎなかつた。而もこの一〇％さへもが豫め管理者及び人民委員部に分配され、一般市場には出されなかつた。第一次五箇年計畫時代には、「クスタリ」と同樣に國營輕工業の生産は消費者の需要を無視して巨大工場の需要にのみ向けられた。更に茶瓶、コツプ、皿も市場に全くなくなつた。何故なら、政府は國民の直接の需要を全然無視して、化學工場及び發電所に使用する磁器や硝子を生産することを工場に强制した。輕工業の生産は消費市場には向けられず、その大部分は謂はば「市場外」の場所に向けられ、重工業工場の建設及び生産の强化、機械の製造、殊に自動車の製造に向けられ、織物は消費者から奪はれてこれらの諸器具の附屬品として吸收された。

「ソヴェートスカヤ・トルゴーヴリヤ」誌（一九三四年第一號）は輕工業の重工業の分工場への轉化に關して極めて興味ある數字を發表した。一九三〇年には日常消費財總額の四一・四％が、市場には提供されずに「市場外の場所」に向けられて、生産的需要に當てられた。更に、一九三一年にはこの比率は四三・六九％に增大した。一九二八年以來日常消費財は單に減少したゞけでなく（例へば、砂糖の消費量は一九二八年の一、二八八、〇〇〇トンから一九三二年には八二八、〇〇〇トンに減少した、卽ち三六％の減少である）、更にこの減少した總額の四三％が消費用から生産用に向けられた。

織物も衣服も靴も砂糖も牛酪も紙も茶もコルクもランプもナイフもフオークも、更に石油ランプの燈口をさへ得ることの出來ない人民の苦痛と窮乏は、第一次五箇年計畫時代には全く言語に絶するものであつた。

チフリスでは揮發油煤爐（「プリムス」）の燈口一個が三ルーブル二五カペークであり、而も勞働者消費組合はそれと同時に錆びた螺施を一個一〇ルーブルで買ふ者にのみ販賣した。或る商店ではコルク一個と交換でのみ鑛泉一杯を販賣した。戰前には一對が三カペークであつた粗末な木匙は四倍にも騰貴し、而も買ひたくとも品物がなかつた。

國民は物資の缺乏に對して不平を云ふことは出來なかつた。日常消費品の缺乏に對して不平がましいことを云ふことは反革命的行爲と看做された。この時代の狀勢を最もよく特徵づけるものは黨中央委員會書記兼政治局員であつたポストウイシエフの次の如き演說である。「右翼共産主義者達は輕工業問題に關して投機を試みやうとした。如何にも、彼等は凡ゆる貨幣がドニエプル水力發電所に、機械器具製作工場に投じられてしまつた、しかるに他方では綿布が缺乏してゐると嘲笑した。黨は「綿布の工業化」に就いてかゝる遊戲をなすことに絶對的に反對した。日和見主義者、背敎者、悲觀論者達は牛酪もない、肉もない、有るのはパン切符だけである。一體どこに社會主義があるのかと泣言を云ふ。しかし、我々マルクス・レーニン主義者は社會主義體制の本質は牛酪や肉の量によつて決定されるものではないと絶對に信じてゐる。」（註一）

（註一）「プラウダ」紙、一九三一年二月十八日。

第一次五箇年計畫時代は（重工業の建設と機械の製造に投資された）資本の加速的蓄積の時代であり、そのために國民の消費が無慈悲に犧牲にされた時代であると定義することが出來る。

しかし、政府は第一次五箇年計畫が終ると人間の生活を思ひ出して、消費財工業を强化する必要を强調した。しかし、消費財工業の現狀が第一次五箇年計畫時代とは比較にならぬ程の發達を遂げたとは決して考へられない。一九三五年に開かれたボリシエヴイキ革命十八年祭の際に共産黨中央委員會によつて確認されたスローガンのうちに、消費財工業の狀態に就いて述べた次の如き言葉がある。「社會主義的都會とコルホーズ農村との間の商品流通を發展せしめよ！一層多くの消費財を！商品の質の向上のために、ソヴェート商業の發達のために働け！ソヴェート商店の全勞働者はソヴェート人民の近代的渴望と需要の充分な滿足のために商店の商品を豐富にするために鬪爭せよ！社會主義とは住民の窮乏の解消を意味する！住宅の

建設は我々の建設的活動の前進のための踏臺とならねばならない。勤勞民の健康に一層配慮せよ！我々の病院、サナトリアム、診療所は模範的活動を示せ！」

しかし、かゝるスローガンの羅列にも拘らず、ソヴェート工業が最大の配慮を示すものは依然生産財の生産であつて、消費財の生産ではない。この問題に關して、一九三七年八月十四日の「プラウダ」紙は次の如き數字を發表した。

年度	生産財の生産	消費財の生産
一九一三年	四〇・七%	五九・三%
一九二八年	四三・〇	五七・〇
一九三二年	五三・八	四六・二
一九三三年	五五・〇	四五・〇
一九三四年	五七・四	四二・六
一九三五年	五九・〇	四一・〇
一九三六年	六〇・六	三九・四
一九三七年（計畫）	五七・〇	四三・〇

ボリシェヴイキ支配の二十年後の現在においても、生産財と消費財とのより正常な割合を打ち建てる問題は未だに解決されてゐない。「プラウダ」紙によれば、消費財の生産は第三次五箇年計畫末に、卽ち一九四二年に全生産の五五%を占めるに至るであらう。

最近における工業生産額

しからば、現在幾何量の工業商品が人民に配給されてゐるか、また過去と比較してどうであるか。

全體として輕工業は決定された計畫を遂行し、その總生産額を三四・五%增加した。これは確かに一つの成功であつた。一九三七年度の計畫は更に二二・四%の增産を決定した。「しかし――と輕工業人民委員は書いた――假令この計畫が遂行されたとしても、輕工業は第二次五箇年計畫のプログラムを達成し得ないであらう。」(註一) 若し人民委員がより嚴密に考へたならば、輕工業の一九三七年度計畫が完全に遂行されたとしても、只に第二次五箇年計畫によつて設定された目標に遙かに及ばなかつたのみならず、第一次五箇年計畫が一九三二―三三年度に遂行した目標にすら達しなかつたことを指摘せねばならなかつたであらう。(註二)

(註一)「リヨーフスカヤ・インドウストリヤ」紙、一九三七年一月九日。

(註二)　一九三七年度の毛織物の生産計畫は一億八〇〇萬メートルであるに反して、第一次五箇年計畫は一九三二―三三年度の實行計畫として二億七、〇〇〇萬メートルを豫定してゐた。一九三七年度のリンネルの生産計畫は三億七、三〇〇萬メートルであるに反して、一九三二―三三年度の計畫は五億萬メートルであつた。

それは兎に角として、一九三六年には日常使用される織物を市場で見ることが出來た。以前には織物が非常に缺乏してゐたので、金價格でさへそれを購買することは出來なかつた。それ以後、スタハノ員、特權的勞働者及び一般に高額の賃銀を得てゐる者は織物を買かことが出來るやうになつた。從つて、最近では大都市の住民は幾分綺麗な服裝をするやうになつた。

纖維工業の技術家達が一九三七年春、英國とソヴエート聯邦とにおける前一商品の價格の比較表を作つた。但しこの場合、ソヴエート聯邦の質の劣つてゐること無視した。彼等は餘りに愼重にも、既に述べシトリンがなした如く、卽ち一九三七年一月一日に決定された一ポンド二・四七四ルーブルの公定相場よりも遙かに低く、一ルーブルを一ポンドの八〇分の一として計算したそれにも拘らず ソヴエート聯邦における價格は著しく高かつた。(單位ルーブル)

品名	イギリス價格	ソヴエート價格
一、本絹の支那縮緬（幅九〇センチ）	二〇・〇〇	六〇・〇〇
二、絹織物（P・K）（幅九〇センチ）	一二・五〇	三五・〇〇
三、本セル（幅一二〇センチ）	二七・五〇	一〇〇・〇〇
四、日本製絹布（幅九〇センチ）	一〇・〇〇	三〇・〇〇
五、綿布（幅五〇センチ）	四・〇〇	一〇・〇〇
六、本絹のモロツク縮緬（幅一二〇センチ）	二五・〇〇	七五・〇〇
七、木綿のベール（幅九〇センチ）	三・〇〇	一九・〇〇

事實、共產黨中央委員會は一九三七年秋には同年の計畫は甚だしく不遂行に終つたことを認めざるを得なかつた。只綿布だけをとつて見ても、その生產額は豫定額よりも三億五、〇〇〇萬メートルの生產不足であつた。「プラウダ」紙はこの問題に就いて次の如く述べた。「原料は豐富であるのに生產物が不足してゐる。……輕工業の指導者達は原料の加工を組織することが出來なかつたか、或は組織することを欲しなかつた。……その結果、人民に必要な商品が非常に不足した。」（註一）

（註一）「プラウダ」紙、一九三七年九月十七日。同日の紙上には、「業務成績不良」の廉によつて輕工業人民委員リユビモーフ、及び同次官エレミンス及びムイシコフが「罷免」されたことが報じられた。

日常消費財に對する人民の欲望がどの程度に充たされてゐるかを正確に評價するためには、商品を重量、長さ或は容積の單位で計算することが必要である。貨幣單位で評價したものは、ソヴエート價格は不安定で不自然であるが故に、比較の基礎となすことは出來ない。

面積は現在と同じであるが、人口は非常に少なかつた。一九一三年に砂糖の生產額は一三五萬六、〇〇〇トンであつた。革命後一九三〇年にはこの生產額は一四六萬九、〇〇〇トンに增加した。その直後、集團化の結果甜菜糖の生產額が減少したので砂糖の生產額は激減した。一九三二年には八二萬八、〇〇〇トンに減少し、一九三三年には九九萬五、〇〇〇トンであつた。一九三四年以來砂糖工業は集團化によつて生じた減產を回復し始め、一九三四年には一三五萬トンとなり、更に一九三六年には二一〇萬トンとなつた。一九三七年度の砂糖の生產計畫は二六〇萬トン、卽ち第一次五箇年計畫時代における一九三二—三三年度の砂糖生產計畫と同額であつた。（註一）

（註一）一九一三年より一九三七年に亙る年間の砂糖生產額は次の諸出版物に發表されてゐる。「一九二七—二八年度ソヴエート聯邦國民經濟統制數字」四九八頁。「ソヴエート聯邦國民經濟建設五箇年計畫」第一卷、摘要、一四四頁。「一九三六年國民經濟計畫」四三〇頁。「エコノミイチエスカヤ・ジイズニ」紙、一九三七年一月十六日。「一九三七年度公表計畫」。

次にその他の日常消費財の生產題に關する若干の數字を掲げやう。

一九三五年十一月にモスクワで開催されたスタハノフ員大會におけるモロトフの聲明によれば、生產豫定額は次の如く決定された。石鹼の一九三五年の生產額は四八萬四、〇〇〇トン（一人當り二・五キログラム）であり、一九三六年の計畫は五八萬一、〇〇〇トンである。腸詰の一九三五年の生產額は一〇萬八、〇〇〇トン（一人當り〇・六四キロ）であり、一九三六年の計畫は一七萬トンである。魚の罐詰の一九三五年の生產額は一、三六〇萬キンタル（一人當り七・七キロ）であり、一九三七年の計畫は一、七八〇萬キンタルである。

次の表はその他の若干の日常消費財の生產額の一斑を示すものである。

品名	一九三五年 總額（百萬メートル）	一九三五年 一人當り（メートル）	一九三六年 總額（百萬メートル）	一九三六年 一人當り（メートル）	一九三七年（計畫） 總額（百萬メートル）	一九三七年（計畫） 一人當り（メートル）
織物						

	總額(百萬足)	一人當り(足)	總額百萬(足)	一人當り(足)	總額(百萬足)(註一)	一人當り(足)
綿織物	二六三・五	一・五四〇	三九九・九	一・四〇	二四〇・〇	一・四〇
毛織物	九七・〇	〇・四一	九七・五	〇・三四	一〇・八〇	〇・四二
亞麻織物	二三・〇	一・三五	二六・〇	一・六	二八・〇	一・三三
革靴	二八	〇・四六	一〇六・六	〇・六一	一二〇・〇	一・〇〇

（註一）一九三七年度の靴の生産物豫定額はこの表に示された先行年度の生産額と比較することは出來ない。何故なら、一九三五年及び一九三六年の數字は皮靴の生産額であるに反して、一九三七年度定額は凡ゆる種類の靴を含んでゐるから。

上掲表によつて明かな如く、一九三六年には未だ輕工業の日常消費財の生産額は極めて僅かなものであつた。即ち靴は一人當り一足に當らず、毛織物は半メートル强であり、亞麻織物は二メートル以下であつた。（註一）

（註一）次に掲げる數字は前掲の數字と同樣に注目に價する。

品名	一九三五年 總額	一九三五年 一人當り	一九三六年（計畫）總額	一九三六年（計畫）一人當り
中折帽	百萬個 二・六	〇・〇二個	百萬個 三・六	〇・〇三個
牛酪	百萬トン 一五・〇	〇・一キロ	百萬トン 一九・〇	〇・一二キロ
アルコール	百萬ヘクトリツトル 六・〇〇〇	〇・〇五リツトル	百萬ヘクトリツトル 七・〇〇〇	〇・〇六リツトル
煙草	十億本 八〇〇	四・〇〇本	十億本 八五	五・〇〇本

一九一三年に一人當りの分配額が四・〇リツトルであつたアルコールを除いては、上掲表の數字は實際上革命前の數字と比較することは出來ない。何故なら、戰前の統計は小規模な私的生産者の生産額を完全に計上してゐないから。

輕工業の日常消費財及び食料品の詳細な生産額は次の諸出版物に發表されてゐる。「一九三五年度國民經濟計畫」「一九三六年度國民經濟計畫」「ザ・インドウストリアリザーチユ」紙一九三五年十一月十七日、「イズヴスチヤ」紙一九三六年一月十二日、「リヨーフスカヤ・インドウストリヤ」紙一九三七年一月三日及び一九三七年一月九日、「エコノミーチエスカヤ・ジーズニ」紙一九三七年二月六日。

確かに、一九三七年度計畫は日常消費財の一一乃至三九％の增産を豫定した。しかし、假令この計畫が完全に遂行され得たとしても、一九三八年初頭における日常消費財の生産額は第一次五箇年計畫における一九三二―三三年度の生産額に尙遙かに及ばないであらう。

一九三六年における日常消費財の一人當りの分配額と一九一三年における一人當りの分配額とを比較することは勿論極めて興味あることである。一九一三年の統計に關しては次の如き資料がある。即ち、一人當りの綿織物一六・三メートル、毛織物〇・六七メートル、亞麻織物一・四三メートルである。從つて、一九一三年の一人當り生産額は一九三五年のそれより多く、一九三六年のそれよりも僅かに少ない。しかし既に述べた如く、戰前の日常消費財工業に關する數字とソヴェート統計とを同列に置くことは出來ない。ソヴェート統計は國家によつ獨占された全工業生産の總額を含んでゐるに反して、戰前においては小規模な私的工業及び「クスタリ」の生産額の大部分は全然統計の內に含まれてゐない。かゝる條件の下においては、若し統計に含まれてゐるものといないものとを問はず全生産額を計算に入れるとすれば、假令ソヴェート工業の最近における成功にも拘らず、戰前における日常消費財の人民への配給額は一九三六年或は一九三七年よりも良好な狀態にあつたに相異ない。（註一）

（註一）「プラウダ」紙、一九三七年五月二十八日號は次の如く書いた。輕業人民委員部の計畫によれば「第三次五箇年後には毛織物一人當りの平均生産額は一メートルを超えるであらう。これでは不充分である、しかしこのやうな狀態もやがて解決されるであらう。」

主要な經濟的推論

かくて、我々は全然ソヴェート統計の數字に基いて、工業化されたソヴェート聯邦において、戰前の農業が支配的であつたロシアにおけるよりも人民の工業生産品に對する需要の滿足の程度は遙かに低いといふ、一見眞實とは思はれないやうな結論に達する。

指導的な政治社會の混亂と決して無關係ではあり得ないかゝる人民の經濟的窮乏は相互に緊密な關係を持つ二つの方面を含んでゐる。

國家はその目的を達成するために國民所得の大部分を獨占する。即ち、國家は工業、農業及び商業の諸分野に集團主義を樹立し、かくてこの集團主義から生じた官僚主義的機構は經濟活動を阻害し、無力化することによつて國家に大きな負擔を課し、更に個人の自發的活動に不可缺であり有益である自由活動を阻害する。國民所得の殆んど大部分は、人民の直接的需要を犠牲として重工業に固定される。尨大な且つ絶えず增大なる金額は軍備に、一般的には軍事豫算に投ぜられる。

從つて、ソヴェート聯邦における實質賃銀は未だに極めて低い水準にある。勤勞大衆の所得が少ない結果、日常消費財のより大量的な流通は阻害され、從つてまたその生産の增大が阻害される。かゝる間接的な方法によつて輕工業及び食料品工業の發展は妨げられてゐる。而も、このことはソヴェートの計畫においては全く輕視されてゐる。他方において、國家が强制的に行ふ現物調達によつて農民に支拂はれる低い價格と農民が購買する工業生産品の過度に高い價格の結果、ロシアの農民は悲慘な生活を送つてゐる。

かくて、ソヴェート經濟政策の一般的方針は消費者の購買力の實質的な向上と兩立しない。人民の一般的福祉の向上を極度に阻害し、國を窮乏に追ひ込むものは、疑もなくソヴェート的經濟政策それ自身である。

この證明の明確さは否定し得ない。重工業は現在のソヴェート聯邦にとつては一つの重い負擔である。しからば、重工業の分野において達成された成功はどうか。

重工業におけるソヴェートの達成

第二次五箇年計畫の進行中における重工業の狀態を示す數字は實に堂々たるものである。（註一）

（註一）一九三四年までのソヴェート聯邦における重工業の發展を示す全數字は「社會主義への前進」の章に掲げた。そこに掲げた一九三四年度の實績を示す若干の數字は次に掲げる數字と幾分相異する。それは各々異つたソヴェートの資料から引用されたからである。

重工業（註一）	一九三四年	一九三五年	一九三六年（計畫）	同（實績）	一九三七年（計畫）
石油（百萬トン）	二・五六	二・六九	三・〇	二・九六	三・四・五
石炭（同）	九三・九	一〇五・三	一二五・〇	一二六・三	一五〇・〇
鐵（同）	一〇・四	一三・五	一四・五	一四・五	一六・〇
鋼（同）	九・七	一二・七	一六・〇	一六・六	二〇・〇
鐵（同）	六・七	九・〇	一一・五	一二・六	一五・五
延鋼（千トン）	五三・三	七六・〇	一一〇・〇	一〇〇・七	一四五・〇
硫酸（同）	七六・〇	九六・〇	一二〇〇・〇	一二〇〇・九	—
セメント（同）	三五三・〇	四四五・〇	五五〇〇・〇	五九八・〇	七四三・〇
電力（百萬キロワット時）	二一・〇	二六・三	三三・〇	三三・〇	四〇・五
自動馬車（千臺）	五五・四	七三・〇	一四四・五	一三四・〇	一九五・〇
遊覽自動車（同）	一七・一	一九・〇	一五・〇	—	二五・〇
トラクター（同（註三））	二四・八	二五四・一	二五四・三	—	二七・七

「小麥コンバイン」（註四）（千臺）	八三	二〇七	六一〇	四六〇	五〇
機關車（註五）（一臺）	一五六〇	一五九〇	一六八〇	一三〇五〇	一四五〇
貨車（千臺）	三六五	九〇八	九〇〇	七五九	九四六

（註一）「一九三五年度國民經濟計畫」五〇〇―五二〇頁。「一九三六年度國民經濟計畫」第二版、四一〇―四二三頁。「プラン」誌、一九三六年第二號。「プラノヴォエ・ハジヤイストヴォ」誌、一九三六年第一號及び一九三七年第一號。「プラン」誌、一九三七年第三號一二―一七頁。「ザ・インドウストリアザアチュ」紙、一九三七年一月三日及び三月三〇日。「エコノミイチエスカヤ・ジイズニ」紙、一九三七年一月一六日。

（註二）一九三四年には六、一九七キロワットであつた發電能力は一九三六年一月一日には六、九一三キロワットに達した。（「プラウダ」紙、一九三六年十一月二十四日）

（註三）一單位一五馬力に換算して算定。トラクター數（單位千臺）は、一九三四年―九四・四、一九三五年―一一三・六、一九三六年（計畫）―九九・二、同年（實績）―一一一・九、一九三七年（計畫）―七九・〇。

（註四）この數字は交通人民委員部所屬の機關車のみを含み、工業に所屬する鐵道網及び狹軌道の機關車、電氣機關車及び發動機機關車を含まない。

（註五）一單位二車軸に換算して算定。この數字は交通人民委員及び工業企業所屬の貨車を含んでゐる。

かくて、ソヴェート政權が兩次の五箇年計畫において國の工業化に成功したことは全く明瞭である。（註一）計畫の基礎である重工業の强度な發展に關する觀念そのものは、確かにソヴェート經濟政策の一特質として擧げることが出來る。しかし實際には、アメリカ合衆國の經濟發展テンポにも比すべき急激な工業化政策が革命前既にロシアに行はれてゐた。しかし、アメリカ合衆國はその當時、實質賃銀の騰貴と日常消費財の增大に表現された、一般的福祉の增進を伴つた。之に反して、ソヴェート聯邦における工業化は一般的福祉の急激な減少と國民資本の大部分の横奪とを代償として獲得された。

（註一）一九三七年度の計畫に關して、「プラウダ」紙、「ザ・インドウストリアザアチュ」紙及び其他の諸新聞紙は一九三七年七月末より八月初めにかけて石炭及び石油の採取、化學工業、重工業及び驛工業其他の諸部門における同年前半期の豫定額の部分的不遂行に關する多數の報告を發表した。これらの諸新聞は紙生産の質的及び量的低下、屑の割合の增大、勞働力の過度な使用、クレヂットの超過等の原因を、第一に規律の弛緩、「妨害者」の行爲に、第二にスタハノフ的勞働方法に對する妨害、指導者間における責任分野の不劃定等に帰してゐる。

重工業を建設するためにボリシエヴイキによつてなされた最大の犧牲に比すれば、それによつて充たされた人民の欲望は取るに足らぬ程少なるものであつた。

重工業の分野においてソヴェートの達成した實績を正しく判斷するためには、それを一億七、〇〇〇萬の人口に頭割りにすれば、その巨大な外觀も實は少なものに過ぎないといふ考へ方が正當である。例へば、石炭、鐵及び石油の三主要工業だけを取つて見ても、ソヴェート聯邦の指導者達が絶えずアメリカに追ひ付き、追ひ越す必要を强調してゐるに拘らず、一人當りのソヴェート聯邦の生産額はアメリカ合衆國の生産額に著しく劣つてゐる。

一九三五年の噸數で計算した一人當りの生産額

	石炭	鐵	石油
ソヴェート聯邦	〇・六二	〇・〇七	〇・一四
アメリカ合衆國	三・五〇	〇・一七	一・一三

ソヴェート聯邦は自動車工業に關してはアメリカ合衆國に比して更に著しく遲れてゐる。假令計畫を完全に遂行したとしても、一九三七年におけるソヴェート聯邦の自動車總臺數は四〇萬臺に過ぎない。之に反して、アメリカ合衆國は一九三五年だけで四、二〇〇萬臺を生産した。

鐵道

假令ボリシエヴイキがその經濟政策の領域において若干の成功を收め得たとしても、鐵道の分野においてはその初期には

殆んど爲すところがなかつた。實際上、鐵道制度がソヴェート聯邦において幾分でも眞面目な注意の對象となつたのは「鐵道委員」と渾名されたカガノヴィチが、交通人民委員に任命された一九三五年三月一日以後のことである。この時までは、鐵道は完全に重工業の犠牲とされてゐた。次第に鐵道の必要が痛感されるに至つたが、鐵道は内亂及び戰時共産主義時代以來瓦解狀態に置かれてゐた。一九三五年に至るまではボリシェヴィキは鐵道網を著しく發展或は强化することもしなければ、更に或る一定水準を維持するために費用を支出することさへしなかつた。しかるに、如何なる「鐵道委員」も一九三五年三月一日より現在の總延長八萬四、〇〇〇キロメートルに及ぶ狀態に回復し得なかつたことは云ふまでもない。

比較的短期間内に幾分でも見るべき成果を得るために、カガノヴィッチは約三萬キロメートルの回復に全力を集中し、他は現在のまゝに放置するより他はないと決意した。しかし限られた範圍内における、カガノヴイッチの相對的な成功さへ正當な手段によるものではなかつた。カガノヴイッチの政策は先づ第一に極度に强化された經營の結果鐵道運輸網の急速な消耗を惹き起し、第二に戰時にも等しい旅客の制限を齎した。鐵道網の强化と車輛の增加は第三の問題と看做され、極めて不充分にしかなされなかつた。一九一七年より一九三五年までに鐵道網の總延長は複線を含めて　六萬三、二四〇キロメートルより八萬四、〇二〇キロメートルに、卽ち三二・九％增大した。しかるに、同一期間内に大工業の生産額は殆んど五倍に增加した。かくて、鐵道網の發達は明らかに商品運輸の增加と一致しなかつた。一九三六年及び一九三七年度豫算における交通費の割合は增加したにも拘らず、鐵道は現在においても尙ソヴェート經濟の最も「狹隘な」、卽ち最も惡い狀態にある部分であると正當に斷定することが出來る。

結　論

要するに、ソヴェート工業の發達に關して次の如く結論することが出來る。

質的成功は、獨立企業の各々がその性質上孤立的であり且つ比較的制限された種類の活動をなす部門において、殊に顯著なものがある。その成功の決定的な要因をなすものは勞働大衆の組織された努力ではなく、比較的少數な熟練者の個人的な自發的活動と能力とである。かゝる事態は、航空事業における否定すべからざる達成と鐵道及び「巨大」工業の分野における顯著な質的進步の缺除とによつて雄辯に物語られてゐる。この確證は國民的生産の管理を最大限度に集中せんとし、その全經濟の計畫化された經濟體制の勝利を證明するものではない。

生産額の增加は現在においても、その發展のためにソヴェート政權が主要な努力を傾注することを止めない重工業の分野に主として限られてゐる。之に反して、人民大衆に對する平等な經濟的配給の問題は未だに解決されてゐない。更に惡いことには、ソヴェート政權はその存立の二〇年後の今日未だにこの問題を解決するための方針をすら決定してゐない。

ソヴェート聯邦の首領達が約束した人民の福祉は、恰も飢え疲れた砂漠の旅行者が到着點と思ふや否や常に直ちに消え去つてしまふ蜃氣樓にも比すべきものである。

昭和十四年三月五日印刷
昭和十四年三月十日發行

著作人　大連市綿町四八番地　水谷國一

發行人　大連市桃源臺八六番地　山岸守永

印刷人　大連市東公園町三一番地　吾妻力松

印刷所　大連市東公園町三一番地　滿洲日日新聞社印刷所

發行所　南滿洲鐵道株式會社

14.5
562

14.5
562

終